

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...



Vol.32

卒業と入学で思い出すこと



昭和46年3月、当時の小学校の卒業式。男の子はみんな詰め襟の制服姿でした。4月から通う中学校へ向け、6年生の秋になると伊勢から業者が制服の注文を取りにやってきました。そつやつて、その店で制服を買い揃えるのが当たり前のことでした。春までに体が大きくなることを見越して、少し余裕を持って大きめにつくるのが業者さんの腕の見せどころだったと思います。

思い出はここからです。確か、上下で1万数千円でしたが、児童が現金を持って登校し先生が集金をしていました。あつことか、私は登校途中で現金を落としてしまい真っ青になりました。担任の先生の声かけにより学年みんな33人で通学路を探すことになりましたが、とうとう最後まで見つげることができず、申し訳なさごとみともなげで半泣きになりました。

そしてもうひとつ、でき上がってきた制服は業者の見通しは大きくはずれダブルのズボンでした。私の6年生の頃の身長が145センチくらいだったことを思うと、おそらくウエスト58センチを85センチと書きまちがえたのではないかと疑うくらいの大ささでした。結局、高校3年になるのを待っても穿けるものではありませんでした。その後、父がどれだけ交渉しても相手は間違いを認めようとせず、一切返金に応じなかったのが、子どもながらに悔しかったです。

安楽島小学校は、昭和53年までは加茂中学校の学区でした。入学式で初めて校歌を聴いて、特に終わりの「戸ああ我がらの加茂中学」というあたりに、小学校とはちがう斬新なリズムを感じたのを憶えています。また、後の音楽の授業で教わったことですが、三番の歌詞にある「世紀の空をかくるため」といつフレーズの「世紀

「かくる」といった言葉に、大人というか中学校はちがうなと思ったりしました。

振り返って、まだ世紀の空は駆けていませんが、鳥羽の持つ潜在能力を発揮するならば、駆けることは十分可能だと思っています。



最後になりましたが、今回の感染症対策に伴い、小学校および中学校が臨時休校となりました。そのまま卒業を迎えられたみなさんにとっては、突然のことです。戸惑われたことと思います。私の場合はお恥ずかしい思い出でありましたが、いつか楽しかった学校生活の思い出と共に「あんなことがあったな」と言い合える、そんな日が来ると信じております。

4月からの新生活、変化を恐れず未来のために歩みを進めてください。みなさまの活躍をご期待申し上げます。



Vol.191

市民課人権・市民交流係 ☎ 1126

ステレオタイプ

わたしたちは、日々の会話や対人関係から、頭の中に自分なりのイメージを作り上げながら生活しています。

例えば、「イチゴ」と聞けば赤い果物を思い描き、血液型が「A型」と聞けば、几帳面な人なのかなと思うかたは多いのではないのでしょうか。

このように多くのかたに浸透し、類型化された観念のことを「ステレオタイプ」と呼びます。

このステレオタイプは、社会に溢れている膨大な量の情報を、一定の型に当てはめて、必要なものとそつでないものに分類して処理を行うため、「認知資源の節約」になると考えられています。

しかし一方では、一度作り上げられたイメージは、知ら

ず知らずのうちに先入観や思いこみ、固定観念...悪い場合は、レッテルや偏見、差別などに姿を変え、わたしたちの認識や行動、判断を誤ったものへ導いてしまう場合があります。

春は始まりの季節です。

新社会人、人事異動、入学や新学期と、毎日の生活で身近にいる人の顔ぶれがガラリと変わるかたもいるかと思えます。

新たな環境に身を置くと、わたしたちは不安から、つい過去の出来事や周りの人から聞いた噂などに影響を受け、自ら考え、判断する力を鈍らせてしまうことがあります。

そんな時こそ、ステレオタイプによる見方や考え方を一度脱ぎ捨て、まっさらな状態に戻ってみてください。

見慣れた風景の中にも新たな発見があるかもしれません。

